

池原 昭治の

さやまの茶本

第96話

お茶の話

ものように畑で仕事をしておりますと、美しい娘があらわれ、男のまわりをグルグル歩きます。そんなことが二日もつづいた、三日めのことです。男は、その日にかぎって遅く畑へやってきました。やはり娘がやってきて男にたずねたそうです。「どうして今日は遅くなったのですか」「いやー、今日は朝茶を飲んでいたので遅くなったんじゃ」といったそうです。娘は雑木林に住む大蛇で、男をひと飲みにして様子を見かねていたので「あさ、じゃ(蛇)を飲んできた」といったので、おどろいて逃げていったのだそうです。男はたまたま朝お茶を飲んでいたので、口ごもって「茶」が「ぢゃ」となったのだそうです。



八十八夜もすぎ、風がおる五月となりました。ここ狭山では「お茶香る



まち」の愛称のごとく、茶つみ風景があちらこちらで見られます。おばあさんに聞きました。「昔は、この季節になるとお茶師がやってきたもんだ」そして、茶づくりうたを教えてくださいました。『宇治の新茶と狭山の濃茶こぢゃと出会いましたよ横浜で

そして、お茶にまつわる民話もありました。

わかるかな？

今月の写真クイズ



写真は、今月の広報さやまの中に掲載してある写真の一部を拡大したものです。何ページの何の写真でしょうか？

解答をお寄せいただいた正解者の中から、抽選で5名の方に記念品をさしあげます。官製はがきで、広報課宛お送りください。

締め切り5月31日(当日消印有効)



[4月10日号の写真クイズの答え]

17ページのつつじ野テニスクラブの写真でした。

表紙の写真

4月27日、こども動物園で、毎年恒例のヒツジの毛刈りが行われました。ヒツジは自然に毛が抜かわらないため、夏を迎えるこの時期に毛を刈らなければいけません。訪れた多くの家族連れが、モコモコの毛をバリカンで刈られていく様子を乗りだして見入っていました。「涼しくなってよかったね」覗き込んでいた子どもがつぶやき、それに答えるようにヒツジがやさしい目で見つめました。



ツミ(ワシタカ目ワシタカ科)

全長約27cm。鳩よりひと回り小さい日本で一番小さなタカで、漢字では「雀鷹」と書きます。特に雄の体は小さく、ヒヨドリほどの小型固体もいます。顔全体が黒っぽいことが特徴で、雄の上面は暗青灰色で下面は白く、脇には淡橙色味があります。目の色は雄は赤く、雌は黄色です。全国の平地から低山にかけての林で棲息し、冬期は暖地に移動します。

針葉樹の枝に枯れ枝を積み重ねて皿形の巣を作り、4月中旬から5月に産卵し、抱卵日数、巣立ちまでの日数ともに30日ほどです。主にスズメなどの小型の鳥を捕食し、営巣地の周りには鳥の羽毛がまとまって散乱する「食痕」が見られます。

最近では市街地での営巣が確認され、市内でも目にする事が多くなりました。

埼玉県生態系保護協会狭山支部
高橋昇さん(中新田)